

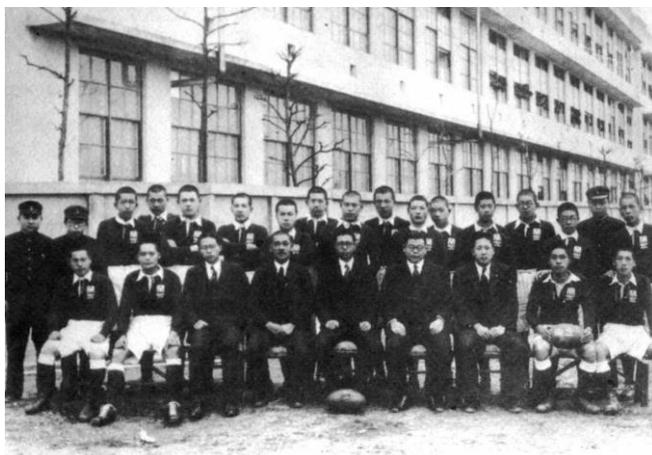


『学園とラグビー』

常翔歴史館では、今年7月に企画展『学園ラグビーの軌跡をたどって -スポーツが育む人間力-』を開催し、多くの方々にご来館いただきました。今の学園には大阪工大、摂南大、常翔学園中・高、常翔啓光学園中・高にラグビーフットボール部（以下すべて「ラグビー部」と記します）があり、これまでの実績や輩出したOB・OGのその後の活躍ぶりから、社会からは「ラグビーは常翔学園を代表するスポーツ」と認められている、と言えましょう。これまで建学の精神やその背景について語ってきた“常翔History”ですが、今回は番外編“Josho History”として、学園ラグビーの黎明期についてご紹介します。

1. 学園ラグビーのはじまり、1934？ or 1937？

右の写真は、現在の大阪工大ラグビー部のエンブレムです。紳士のスポーツに相応しい格調高いデザインではないでしょうか。そして、そこには SINCE 1934 と記されており、「我々は1934（昭和9）年創部の伝統あるチームです」ということをアピールしています。第一室戸台風の直撃を受けた阪神地区に未曾有の被害が出た1934年、学園は南方校舎を主校地として関西工学校、関西高等工学校、関西工業学校の3校を設置していました。そのいずれかで、同好の士が集まって「ラ式蹴球」（戦前のラグビーの言い方の一つ）が始まったものと思われませんが、残念ながらチームスタッフならびに常翔歴史館は、現時点でそのことを明記した史資料にたどりついていません。



昭和12年2月24日関西工学校ラグビー部結成
(参考文献1, p.56 掲載写真を転載)

一方、大阪工大高（現・常翔学園高）ラグビー部は、創部50周年誌の中でその淵源を詳しく記しています¹⁾。その一部を引用します：

…昭和10年頃、関西工学校建築科の大海卯一教諭が体の強そうな連中を集め、ラグビー競技の手ほどきをされたのが始まり。その後、他の運動部からラグビーに興味を持つ者が集まり、昭和11年頃にはルールもほぼ覚え、チームとしての陣容が整ったので部活動として学校側の許可を受け、西部ラグビー蹴球協会に加入、昭和12年2月24日、正式に「関西工学校体育会ラグビー部」として誕生した。

すなわち、関エラグビー部誕生の1937（昭和12）年を創部年としており、正式に誕生した日に撮影された記念写真も残されています（上）。前列右から3人目がラグビー部生みの親である大海卯一先生、バックは当時「白亜の殿堂」と言われた新築直後の城北校舎です。

当時の大阪府下中学校では、天王寺中、北野中、八尾中、浪華商業、京阪商業、四條畷中、興国商業、浪高（旧制）尋常科、日大附属大阪中に続いて、関エラグビー部は10校目となりました。ただ、他の学校は最上級生が5年生でしたが、関西工学校は全国唯一の4年制乙種工業学校でしたので、ラグビー経験期間のハンディキャップもあり、戦前は一度も大阪府大会で優勝できませんでした。それでも関エラグビー部は、現在常翔学園高校舎の位置にあったグラウンドで日々厳しい練習に励んでいました。淀川の堤防近くにはラグビー部員の合宿所と化した「青雲寮」があり、男臭い青春の息吹が漂っていたそうです。記録に残る最古の試合は、1937年5月1日、対昭和商高（現・大阪経済大）との一戦、昭和商高グラウンドで15時キックオフ、結果は3-12で敗れました。

2. 戦時体制下、それでも楕円球への熱い想い

1939（昭和14）年9月、ドイツ軍がポーランドに侵攻して第二次世界大戦の火蓋が切られ、我が国も厳しい局面を迎えました。しかしながら、食料や物資が欠乏する状況にあっても、関工ラグビー部員は楕円球に熱い想いを抱き続けました。



1939年6月11日、関工グラウンドでの対北野中戦。
後ろに青雲寮が見える。（常翔歴史館所蔵）

ここに1枚の写真があります（右下）。1943（昭和18）年9月24日に花園闘球場で開催された「大阪府中等学校報國團第二回総合体育訓練大会・闘球班番組」での關西工學対浪速中學の試合です。その記事¹⁾曰く：



1943年9月、花園闘球場での府大会対浪速中戦。
（参考文献1, p.77掲載写真を転載）

…スポーツ用具の配給等は全く無くユニフォームは古い物を持ち寄り、自宅で染め直し、やっと同色の15枚を作り上げ府大会に参加出来た。勿論シューズ等は無く両軍「はだし」で戦う。楕円のボールはつぎだらけでデコボコで有った。然しボールに集中する熱気、戦いにいどむ闘志・闘魂はいささかも衰える事はなかった…

この大会が戦前最後の試合となりました。

3. 終戦、そして再び楕円球が大空に舞う

1945（昭和20）年8月、終戦の大詔と同時に関工ラグビー部関係者は淀川堤に集まり、日々の食事に窮する状況であっても、お互いに助け合い、励まし合い、古い用具やつぎはぎだらけのボールを持ち寄り、楕円球が河川敷の大空に舞ったそうです。ただ、戦場に散った、あるいは、すぐには復員できなかったOBや部員も少なくなく、相手チームもなく、しばらくは試合ができませんでした。それでも、OB・現役混合の「城北クラブ（初代?）」チームで15人が揃い、同年12月9日には、西宮ラグビー場で「六稜クラブ」（北野中OB・現役混合チーム）と試合を行った、との記録が残されています。結果は0-11で六稜クラブが勝利しました。

淀川のほとり、関西工学校で産声を上げた学園ラグビー。時には裸足で闘った先人たちの熱い血潮のDNAは、戦後の大規模な学制改革により、大阪工大（創部1949年）、摂南大（同1976年）、常翔学園中・高（同1948年）、そして、常翔啓光学園中・高（同1963年²⁾）のそれぞれのラグビー部へと継承され、スクラムを押し込みバックスが縦横無尽に走り回る光景が、今日もグラウンドで展開されています。

※ 参考文献など

- (1) 「創部50周年誌」, 大阪工業大学高等学校ラグビー部OB会編・1989年発行.
- (2) 『50周年アーカイブス 啓光ラグビー「碧空」』, 常翔啓光学園ラグビー部OB会・2012年発行.



常翔歴史館では、学園創設期から今日にいたるまでの「学園のあゆみ」を、写真や展示物などを通して紹介しています。**自校史学習の一環として、是非生徒・学生のみみなさんご来館下さい。**

この9月から常設展の内容を一部変更しました。学園ラグビーゆかりの展示物もご覧いただけます。

① 開館時間：月曜日～金曜日の11:00～17:00

② 問い合わせ先：常翔歴史館事務室

内線：801-7762

外線：06-6955-7762